

mFOLFOX6療法

のスケジュール

お薬の名前	スケジュール			
	1日目	2日目	3日目	4～14日目
レボホリナート		お休み		
オキサリプラチン				
5-FU（急速静注）				
5-FU（持続静注）		46時間で終了		

- ・1～14日を1回の治療として、繰り返し治療をおこないます。
- ・症状や経過に合わせて、治療スケジュールは変わる可能性があります。

●当日のスケジュール

順番	お薬の名前	投与の目的	点滴時間（目安）
①	生理食塩液	血管ルート確保	-
②	デキサート注 グラニセトロン点滴バッグ	吐き気予防	15分
③	レボホリナート 5%ブドウ糖液	5-FUの効果を高める	120分 ③④同時
④	オキサリプラチン 5%ブドウ糖液	抗がん剤	
⑤	5-FU（急速静注） 生理食塩液	抗がん剤	2～3分
⑥	5-FU（持続静注） 生理食塩液	抗がん剤	46時間(インフューザーポンプを使用)

- ・点滴時間は約2時間30分です。その後ポンプでの投与が46時間かかります。
- ・点滴当日に採血を行い、白血球などの検査値をチェックします。
- ・1回の治療にかかる薬品費は3割負担で約1万円です。

◎ 起こりやすい副作用について

○末梢神経障害

オキサリプラチンの投与後2～3日間、冷たいものに触れたりすると手足や口のまわりのしびれや痛み、喉がしめつけられるような感覚がでる事があります。投与を繰り返すと、個人差はありますが徐々に冷たいものに触れなくても症状が持続するようになってきます。「ボタンがはずしにくい」、「しびれて歩きにくい」等の日常生活に支障をきたすような場合には、オキサリプラチンのみをお休みして回復を待つことがあります。治療中は冷たい飲み物などを避け、体や皮膚を冷やさないよう注意して下さい。

○食欲不振・吐き気・嘔吐

個人差の多い副作用です。抗がん剤での治療中から起こる事があり、1週間ほど続く場合があります。症状と時期に合わせて、吐き気止めのお薬を使い対応していきます。

○疲労感・全身倦怠感

全身がだるくなったり、力の抜けたような感じになることがあります。

○下痢

1日3回以上の排便回数の増加や水様便が出る場合があります。症状が続く場合は、脱水症状を防ぐため十分な水分補給を心がけてください。下痢を予防するお薬が処方される場合もあります。

○白血球減少

抗がん剤を投与後してから10～14日頃に白血球数が最も減少すると言われています。白血球が少なくなると、病原菌に対する体の抵抗力が弱くなり、かぜをひきやすくなったり、口内炎ができたりします。かぜ予防のため手洗い・うがいを心がけましょう。

○赤血球減少

赤血球の数が少なくなるとだるさや疲れやすさ、めまい、少し動いただけで息切れがする、脈拍が増える、動悸がするなどの貧血症状が現れることがあります。

○血小板減少

出血を止める作用がある血小板が極端に少なくなると、内出血、鼻血、歯磨きによる口の中の出血などの症状が起こることがあります。

● その他の副作用について

○アレルギー反応

発熱、寒気、ふらふら感、しびれ、呼吸困難、かゆみ、発疹、紅潮、眼や口の周囲の腫れ、発汗が起こることがあります。オキサリプラチンの点滴を初めて受けたときにあらわれる場合と、何コースか繰り返した後で起こる場合があります。

○注射部位反応（発赤、痛み）、血管炎、血管痛

○腹痛・便秘

○せき

○脱毛

○粘膜の炎症・口内炎

○色素沈着

○爪の異常

これら以外の副作用があらわれる場合もありますので、気になる症状があらわれた際には必ず医師、看護師または薬剤師にご相談ください。

